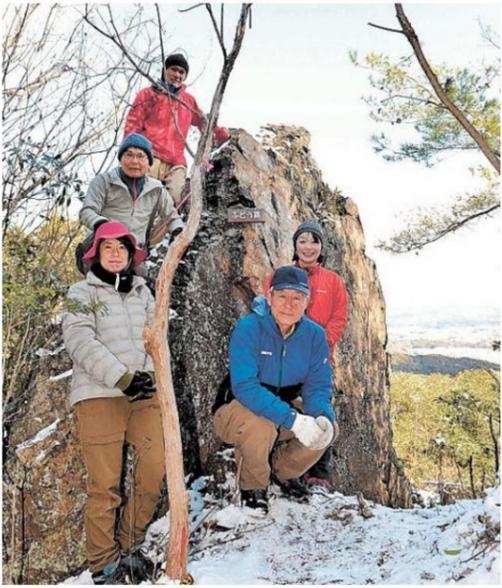


新登山ルートで「岩巡り」

関市の山岳愛好家がつくる関山岳会が、市南部の関南アルプスに新たな登山ルートを整備した。大岩不動尊の南西にある大岩山(336㍎)を巡る「岩巡りルート」で、北アルプス方面の眺望を楽しめる「天狗鼻」「ふどう岩」などを経由する。鈴木久康会長(71)は「登山するたびに新たな発見が期待できるルート。変化に富む関南アルプスの知名度も高めたい」と思いを語る。

(吉岡隆博)

関南アルプスでは、東部を分散させようと昨年からの明王山(383㍎)や金毘羅山(最高点384㍎)を進め、「ふどう槍」(27㍎)などに登山者が集中しがちだった。山岳会は登山動線(28㍎)へ向かうルートや、



登山道を整備した鈴木久康会長(中央)ら関山岳会のメンバー。関市迫間、ふどう岩

関山岳会、関南アルプス大岩山に整備

雄大な眺望、スリルある岩場特徴

大岩不動尊・奥の院へ下るルートを新設。登山者から好評を得たことを受け、岩場を巡るルートの充実を図った。

新たに整備したのは、既存ルートから分岐し、天狗鼻(248㍎)や、ふどう岩(234㍎)を経て大日向山(277㍎)方面へ向かう区間と、ふどう岩から奥の院へ下る区間。複数の岩場を巡りながら周囲で、各岩場からは御嶽山や乗鞍岳、笠ヶ岳などの雄大な眺望が望める。

春にはかれんな花が魅力のヤマイワカガミなどが咲き、季節ごとの楽しみも広がる。大岩不動尊からふどう岩までは約25分とコンパクトな行程で、登山中級者以上の力量は求められるが、岩場ならではのスリルや踏破後の達成感を味わえるのが特徴だ。

整備に向けては鈴木会長が昨年10月からルートを調査し、同12月ごろから山岳

ふどう岩からの眺望。雪を冠しているのは右から御嶽山、乗鞍岳、笠ヶ岳(関山岳会提供)



赤が新設した「岩巡りルート」。紫は昨年整備した(同)



会員4人と整備。危険箇所を避けながら周回できるルート設定を慎重に行い、ロープを張ったり手作りの看板を掲示したりした。岩巡

リルートの整備に伴い季節の花を追加してトレッキングマップを更新し、4月までは近隣の道の駅や産直市場などに置いてもらう予定で、5月2日には自然観察会も計画している。

山岳会はこれまで、登山のマンネリ化を防ぎ、何度訪れても新しい発見がある山づくりを目指してきた。ここ2〜3年で登山者は大幅に増え、遠方から訪れる人も見られるようになったという。岩巡りルートの新設は周辺整備の完結版としての位置づけだが、鈴木会長は「年間を通じて常にリピーターになる山を追求していきたい」と意欲を語る。